



三鷹の森学園 **CS** だより

第5号

～地域は学校を支え、学校は地域を結ぶ～

CS (コミュニティ・スクール)

平成 16 年 9 月から、新しい公立学校運営の仕組みとしコミュニティ・スクール(学校運営協議会制度)が導入されました。コミュニティ・スクールは、保護者や地域の皆さんの声を学校運営に直接反映させ、保護者・地域・学校・教育委員会が一体となってより良い学校を作り上げていくことを目指すものです。三鷹市では平成 18 年度から導入を始め、全国より注目を浴びています。「三鷹の森学園」は第三中学校、第五小学校、高山小学校からなり、平成 21 年度より開設、もうすぐ 2 年になります。

雪とけて村いっばいの子どもかな (一茶)

学園長 山田 三重子

立春がすぎる頃、校庭いっばいになって楽しそうに遊ぶ子どもたちの姿を見るたびに、ふっと頭に浮かぶ一茶の句です。幼い頃のかれた遊びで覚えたこの句は、春が来て雪がとけ、やっと外で遊べる子どもたちの喜びを表していると思いつけてきました。

最近、作者や地域を覆っていた雪のように冷たい不安が解消し、心からの笑顔や人を思いやる気持ちを取り戻した子どもたちが、安心して外で人とかかわり、人の和や笑顔に満たされた情景を詠んだのかもしれないと考えるようになりました。



「よい地域が子どもの笑顔を導き、生きる喜びを育む」ことを伝えてくれるように思います。



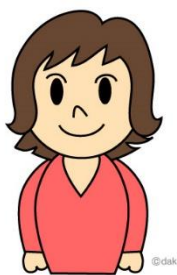
春浅し 諸々ありて 氣もそぞろ

コミュニティ・スクール委員会 会長 石井章夫

広報担当から「立春」で一句との注文を受け、今の心境を素直に詠みました。新年度に向けて諸々の課題解決に奔走する時期、ひねもすのたりといくはずもなく、気を引き締めている毎日です。宜しくお願い致します。

冬と春の境目の日「節分」を終え、暦の上では春が始まりました。お二人にはこの節目に、春を感じる一句を選んでいただきました。

研究発表会 講演 ～「話したい」と思う気持ちを育てる～



玉川大学リベラルアーツ 学部長 佐藤久美子先生

佐藤久美子先生には、三鷹の森学園開園以前から、アドバイザーとして学園の英語教育実践に多くの貴重な助言をいただいております。現在の英語授業プログラムのチャンツや英語体操などは、学園の英語教育の基礎となっています。

優しく温かな語り口、柔らかな表情に引き込まれ、「トマトじゃなくて tomato♪」と一緒にうたっているうちに、英語って楽しいかも！と思ってしまうました。

広報部より

なんとなく気忙しいこの頃。そろそろ一年間の活動を締めくくべく、反省や後悔、果たせなかった野望(?)などなどをまとめる時期のはず...ですが、広報部はまだまだエンジン全開で活動中です。お乞うご期待!!

今回のCSだよりは

◆CS 評価部リポート

CS 評価部長西野美由紀さんが学園アンケートを鋭く検証!

◆研究発表会報告

小・中一貫コーディネーター吉川先生(高山小)のガイド付き!

# CS 評価部レポート

評価部 部長 西野 美由紀さん

三鷹の森学園が開園して2年がたちます。

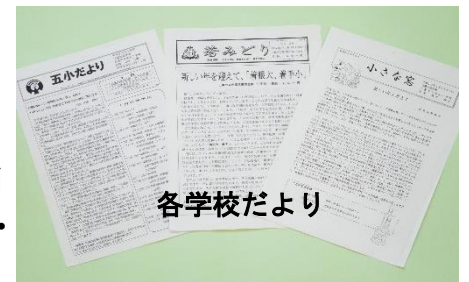
コミュニティ・スクール委員会では学園で行われている活動や取り組みの評価検証の指標となる保護者アンケートを実施しています。今年度は11月に三鷹の森学園保護者の皆様にアンケートをお願いしたところ、昨年を大幅に上回る92%の回収率となりました。アンケートの結果から、三校間での比較および昨年度との比較を行っています。今回はコミュニティ・スクール委員会評価部が実施した「学園保護者アンケート」の検証結果をご報告します。



評価部会「学園保護者アンケート」設問検討中

## 今年度はここに力をいれました！

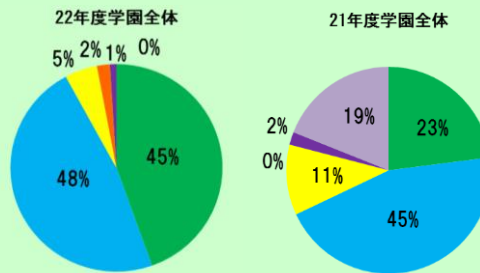
広報部を新設し三鷹の森学園が取り組んでいることを保護者や地域の皆さんに情報発信し、コミュニティ・スクールをより多くの方に理解していただこうと考え特に広報活動につとめました。結果、「三鷹の森学園CS（コミュニティ・スクール）だより」の発行を通じ、コミュニティ・スクールの理解が広がったといえます。



各学校だより

### 【設問】

学校は、コミュニティ・スクール委員会の設置校として学校公開、学校だより、三鷹の森学園だよりなどで積極的に情報公開している。



### 【凡例】

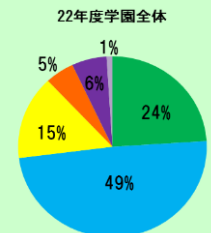


## 今後の課題はずばり「学力向上」！

「授業がわかりやすいか」との設問がありますが、今後とも継続して努力すべき項目です。この設問に対しおおむね肯定的に答えたのは、全体の73%ですが詳しく見ると年齢が上がるにつれて低い評価になる傾向にあります。I期、II期、III期の一貫した授業について、期待と合致しない現実があると思われます。「学力の向上」を方針とし、小・中合同での乗り入れ授業や小・中の教員による授業研究を進めています。今年度の4教科での実践をさらに広げ続ける必要があると思われます。開園以来、課題としている、児童・生徒が進んで学習に取り組み、授業を理解し、確かな学力をつけるための「学力の向上」と「健全育成」の2本柱とした教育活動を継続します。また実施した成果は、数値やグラフ等を利用し見えやすい形で周囲に伝えることが必要と思われます。

### 【設問】

子供は授業が分かりやすいと言っている



※前年度は該当データなし



乗り入れ授業



研究授業



T・T (複数教員授業)

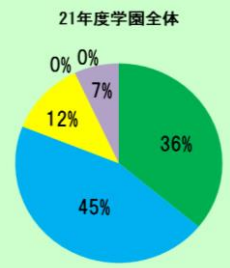
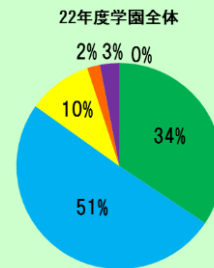
## 私たち保護者がやるべきこと…

「健全育成」では「心身ともに健康」「マナーを守り授業を受けることができる」「人を思いやることができる」といった小さなことが、多くの友達と学校生活を楽しむことができ、ひいては思いやりの心を持つ・いじめをなくす

・学習意欲を高めることへつながると考えます。そのためには家庭の力が欠かせません。今回のアンケートは「学校は・・・」と問うていますが、子供たちと向き合うとき、学校だけでなく私たち大人も変わることが必要だと感じます。「健全育成」のために各家庭での発達段階に合わせた「家庭教育」があり、地域では集団の中で学ぶべき「社会のルールやマナー」「社会性を育てる教育」が必要です。次回からは設問の見直しも検討します。

### 【設問】

学校は、生活指導やあいさつ運動などの自主的な活動を通じて社会の決まりやマナーを身につけさせる取り組みをしている

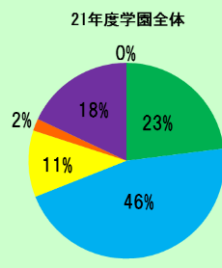
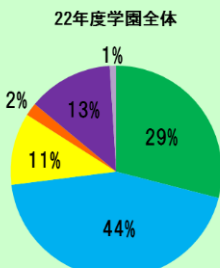


あいさつ運動

## 地域のマンパワーをお貸しください

### 【設問】

コミュニティ・スクール委員会は専門家や地域人材と連携し、多彩な教育活動を支援している。



キャリア教育指導では地域のお力を借りて職場体験に出かけていきます。また学校では、より専門知識や技術を持った地域の方の協力をいただきゲストティーチャーとして授業を行う場合もあります。アンケート結果からは、現状よりもっと多くのスペシャリストの協力を求めていることがわかります。充実した授業が作られるよう、学校が求めている人材をどのようにコーディネートしていくかが大きな課題です。そのためには地域から情報を集め学校教育につなげていく方法を考えることが必要と思われます。



ゲストティーチャーによる玉川上水の授業・手話の授業

## 地域の皆様へ・・・

家庭ではマナーや基本的な生活習慣を身につけさせるための基盤を作り、学校や地域は協調性・人間力・公共性を学ぶところと思っています。今、私たち大人には、家庭・学校・地域が連携し、それぞれが担う役割を十分理解して常に「子供たちの手本」になることを求められていると思います。今年度のアンケートは、学校を評価対象としましたが、次年度は視野を広げ、家庭や地域での取り組みや見守りを調査検証できるようにアンケート項目の追加や見直しを検討します。次世代を担う子供たちのために地域の皆様のご協力をお願いします。



玉川上水清掃

# 三鷹の森学園研究奨励校発表会 地域とともに学力・人間力をはぐくむ

— 9年間を見通した授業 —

平成 23 年 1 月 17 日、三鷹の森学園の児童・生徒、先生が三中に集まり、この 1 年間の研究の成果を発表しました。外の寒さを感じさせないホットな授業と発表会の様子を、高山小学校の小・中一貫コーディネーター吉川先生の熱い解説を交えながらお伝えします！！



教師生活の中でこんなに中学校の先生と話をしたことはありませんね (笑)

コーディネーターとしても「つなぐ」ことを意識しました。そのひとつのツールが「研究推進だより」です。研究のテーマをしぼり、具体的な実践や成果を

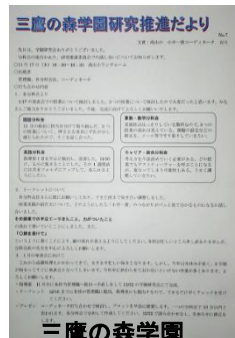
## ● 小一中がつながる！



発表会事前準備



五小の下津先生と三中の飯田先生



三鷹の森学園  
研究推進だより

## ● これが9年間を見通した授業だ！(英語)



**I 期 1～3年**  
美しく自然なインプットをシャワーのように体験する時期



**II 期 4～6年**  
語彙を増やす時期



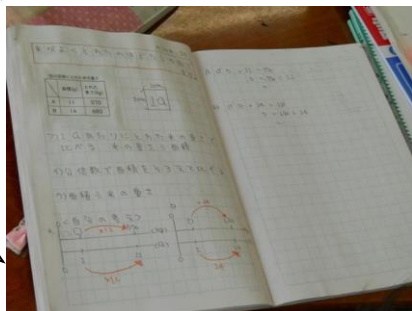
**III 期 中学生**  
4技能(聞く・話す・読む・書く)のバランスのとれた学習活動が中心

中学校卒業時における育てたい生徒像に向かって、小学校では今何をしなければならないのかを考えました。

この1, 2年で子供たちが目に見えて変わったということは分かりづらいかと思いますが、9年後には目指すゴールに到達できるよ

## ● 授業改善への取り組み

他にも、国語では「話し合いのスキル」、英語では「授業プログラム」、キャリア・総合では「伸ばしたい力の一覧表」など、これらを9年間通して活用していくことで一貫性のある授業を展開していきます。



これまでは、ワークシート中心の学年もあり、ばらつきがありました。算数・数学ではノート指導を統一しました。ノートに自分の考えを書く欄を設けることで、思考力、表現力についても9年かけて育てます。

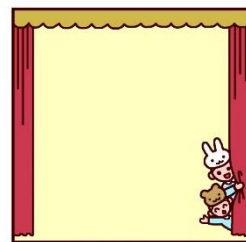
## ● 地域・保護者にできること

この地域は保護者とのコミュニケーションがあたりまえにとれるよい地域ですね(笑) 研究発表で「ノートが変わった」といえばお子さんのノートを見て子供と対話し、それをまた学校に返していただければ、我々の研究もさらに深まります。

まだまだやるべきことがあります。4教科で行った授業改善を他教科にも広げ、9年間を見通した授業に取り組んでいきます！



「五小を知ろう」では卒業生が協力してくださりました。



約 250 名の地域・保護者の方が来校してくださりました。

「仲良くなるためにはまずはお互いをよく知ること。これは子供と同じですね。」という吉川先生の言葉からも、小・中の先生方が1年かけて交流を深めたことがわかりました。コミュニティも同じです。学校を支える私たちも、しっかりと絆を作っていかなければと思いつつインタビューを終えました。